

連携協働科目  
「子どもの安全と学校組織」  
について

先端教職課程カリキュラム開発センター 川上泰彦

# 「連携協働科目」全体のコンセプト

- 学校教育の高度化・複雑化→「組織的対応」が求められる
  - 具体的には：「学校」（職場）の内部・外部での連携が求められる
  - 教職課程において「組織マネジメント」「連携協働」を扱う必要
- ただし、初任期教員にとって「組織マネジメント」をイメージするのは難しい（中堅期以降の課題として認識される傾向）
- 学生にとっての「連携協働をめぐる課題の広がり」を整理
  - 学校組織マネジメントに関する学びの「入口」としての「**学校安全**」
  - 学校内に軸足を置いた連携課題としての「**児童生徒の指導・支援**」
  - 学校外も含めた幅広い連携課題としての「**防災**」

# 「連携協働科目」 3科目の設定

- 1. **「子供の安全と学校組織」 (1年次)**
  - 学校組織マネジメントに関する学びの「入口」
  - その後の学校体験活動等への応用を期待
- 下記2科目は2026年度より開講
- 2. **「教師の連携・協働と学校経営」 (3年次)**
  - 主に学校内に軸足を置くことが求められる連携課題
  - 実地教育（教育実習）との相互作用を期待
- 3. **「多機関連携と学校防災」 (3年次)**
  - 学校外も含めた幅広い連携課題

### 3、授業の概要

履修年次	1年次
開講時期	前期
開講曜日・時限	水曜日 3限 (13:10~14:40)
単位	2単位
授業回数	15回
授業方法	対面
授業場所	108教室 (共通講義棟) グループ討議時 (102・302・304)

## 【第1回講義より】 この講義では… 学校における「子どもの安全」を考える

- 安全な環境を用意するだけでも大変
- 安全な活動を保証するのは、もっと大変
  - さまざまな「動き」で条件は変化する
- 「対応」「予防」にもいくつかの段階がある
  - 日常的な予防（一次予防）
  - 問題の早期発見と対応（二次予防）
  - 復旧（リハビリ）と再発防止（三次予防）
- いろいろなことに「気づけること」を大切に
- ひとりで対処できる範囲／組織で対処する範囲

回	授業日	授業のテーマ
1	4月9日（水）	オリエンテーション：学校生活における「リスク」とは
2	4月16日（水）	中学校における「安全」（附属中学校教員による講話）
3	4月23日（水）	幼稚園における「安全」（附属幼稚園教員による講話）
4	4月30日（水）	小学校における「安全」（附属小学校教員による講話）
学校観察実習（ 5月7日（水）～ 5月14日（水））		
5	5月21日（水）	学校観察実習をふまえた校種別「安全」の振り返り
6	5月28日（水）	食物アレルギーへの対応①（ケース教材の演習）
7	6月4日（水）	食物アレルギーへの対応②（予防策の検討と講義）
8	6月11日（水）	教育活動中における事故への対応①（ケース教材の演習）
9	6月18日（水）	教育活動中における事故への対応②（予防策の検討と講義）
10	6月25日（水）	教育活動における安全体制（第6回～10回の振り返りとディスカッション）
11	7月2日（水）	登下校における交通安全①（ケース教材の演習）
12	7月9日（水）	登下校における交通安全②（予防策の検討と講義）
13	7月16日（水）	学校における生活安全①（ケース教材の演習）
14	7月23日（水）	学校における生活安全②（予防策の検討と講義）
15	8月6日（水）	学校生活における安全（第11～14回の振り返りとディスカッション）

【第2回～第4回】 附属学校園との連携

学校観察実習との相乗効果



# 生徒の安全と学校組織

～附属中学校における安全の取り組み～



令和7年 4月16日

兵庫教育大学附属中学校 防災安全担当

赤井 孝亮

# 安全教育

安全学習

×

安全指導



【質問】これ以外にも  
「こんな訓練したよ！」  
というのありますか？

通学路の確認 交通安全教室 情報講演会 火災訓練、  
地震訓練 不審者対応合同訓練 心肺蘇生法講習会など



# 幼稚園の安全



兵庫教育大学附属幼稚園  
養護教諭・保健主事 田井 清美



# 年度当初の教職員との 共通理解

1. 救急体制・発生時危機管理マニュアル
2. 学校保健計画・学校安全計画
3. 保育の衛生管理
4. 感染症対応・欠席
5. 配慮を要する幼児の共通理解
6. 保育者の立ち位置
7. 安全点検





安全対策 使いやすいように配置

2025/04/30

---

# 子ども安全と学校組織

---

兵庫教育大学附属小学校

主幹教諭 谷尾 康太



1年生



6年生

**発達段階**に応じた指導

幼稚園のときは、どうして  
たかな？

どんな姿勢(ポーズ)だっ  
たかな？



逃げる際に、窓や扉は開  
けておきますか？  
それとも閉めておきます  
か？

みんなの避難の姿で、  
引っ張っていこう！

# 【第5回】 「振り返り回」

- 第1回から第4回までの振り返り
  - 幼稚園・小学校・中学校・特別支援学校のそれぞれにおける「学校安全」について
    - 学校観察実習の中で、気付いたことは何でしょうか
    - ゲストの話に関連すること、新たに気付いたこと
    - それぞれ思い出して、気づきを整理しておこう
  - みなさんがこれまでに感じた「学校における事故・リスク（危ないと感じたこと）」について

# 【第6回以降】 演習パートの進み方

- 1テーマを2回で構成
  - 1回目：学校安全に関する演習（事例に対する検討）
    - 4教室に分散して実施（各部屋40人程度）
    - 8グループ（1グループあたり5～6名）で演習
    - 演習成果（と、2回目に向けた個人課題）を提出
  - 2回目：1回目の演習についての共有・解説
    - 1教室に集合して実施
    - 1回目の演習成果・個人課題について共有
    - 事例に関連する事項の解説
      - 食物アレルギー 森井沙衣子先生
      - 教育活動中の事故（熱中症等） 森田啓之先生
      - 交通安全・生活安全 西山高史先生（高槻市立桜台小・教頭）

## 【演習事例】 学校における生活安全

ある公立中学校において、5月初旬、A先生は理科実験室にて、中学校1年1組（38名）の理科の授業を担当していました。

ガスバーナーを使用した実験中、教室の外からガラスが割れたような音が聞こえたため、廊下に出てみると、理科実験室からは少し離れた廊下に生徒が一人、倒れているのが見えました。周囲には割れた窓ガラスが散乱しているようにも見え、他に誰もいません。

ガラスの音が割れる大きな音を聞いて、手の空いている1年1組の生徒たちも、廊下に飛び出しました。

理科実験室のある2階には、ほかに2年生の教室が並んでいますが、2年生は校外学習中で、このとき、2階には1年1組の生徒とA先生しかいません。この2階の廊下を通り抜け、渡り廊下を使って体育館に向かうような校舎の構造になっています。1階に1年生の教室と校長室及び職員室、保健室があり、3階には3年生の教室があります。

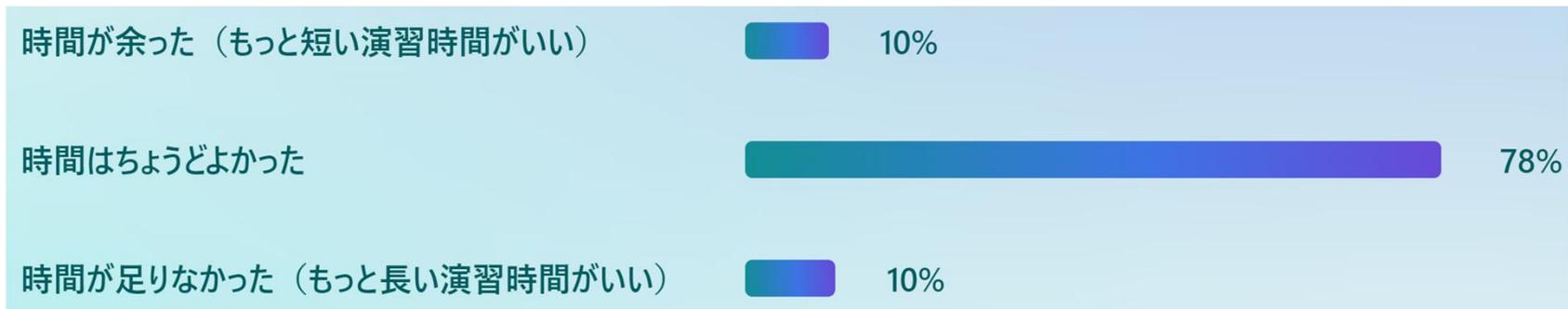
また、校舎の各階に、長い廊下があります。この中学校では、長い廊下を走る生徒が多いため、いつも生徒に対して「絶対に廊下を走らないように」と注意指導がされていました。

演習 2 - 1

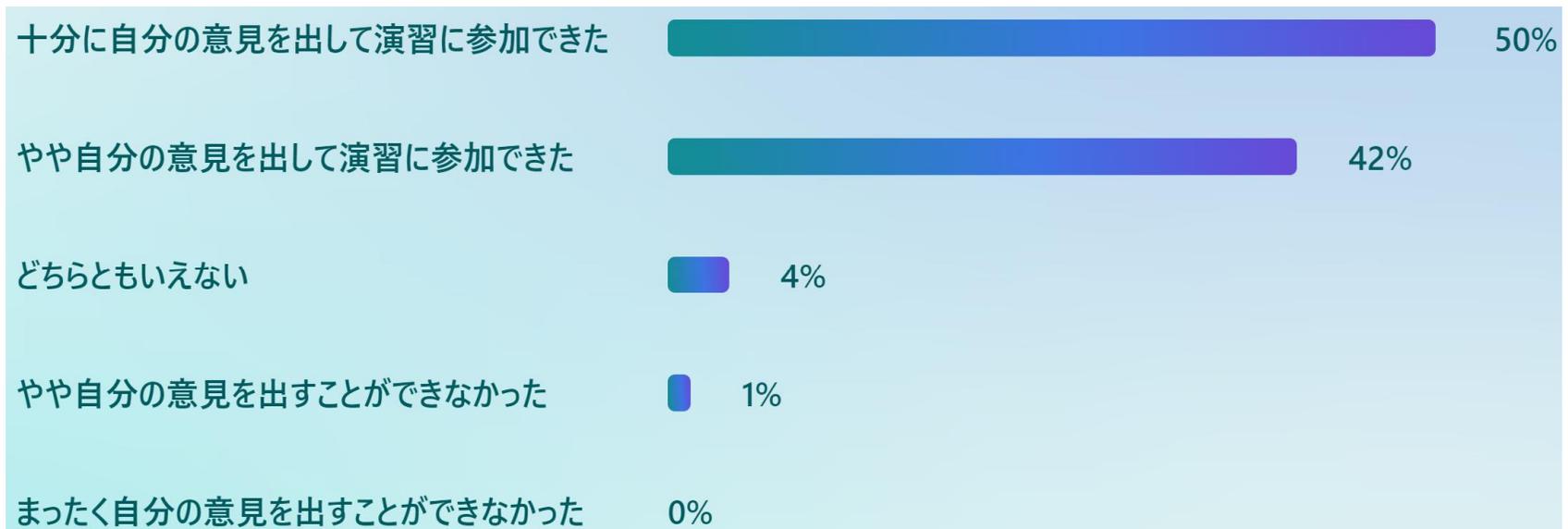
あなたがA先生なら、まずどのように対応しますか？  
対応すべきことを箇条書きで挙げて下さい。

## 成果（第13回・第14回を例に）

### • 演習時間について



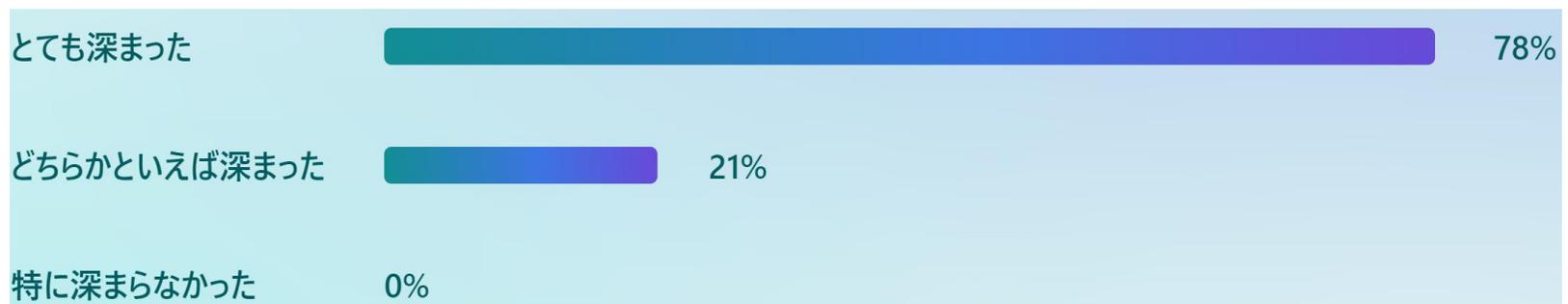
### • 自分の意見を出して参加できたか



- 新しい気づきや学びはあったか



- 興味は深まったか



- 演習に関連して、調べものをしたか



## 【2026年度に向けて】

- 「子どもの安全と学校組織」は受講学生からの評価が高く、講義・演習の質の維持向上につとめる
- 「教師の連携・協働と学校経営」「多機関連携と学校防災」については新規開講科目となる。「連携・協働」に係る幅広い学びを保障するような実装を進める。
- まだ本学のみでの授業展開にとどまっており、他大学等への成果の展開については、今後の（目下の）課題。